

(様式1)

評価及び取組報告書

2025年 1月24日

神田幼稚園

園長 齋木 彩華

次のとおりわかば環境 ISO の取組結果を報告します。
評価結果を踏まえ、継続的な取組に努めます。

1 取組の紹介

共通メニュー		
省資源	省エネ	ごみの減量化
<p>今年度も大イベントである作品展を2月8日に実施する。去年の12月から家庭での廃材の収集を呼びかけている。</p> <p>牛乳パック、布の切れ端、空き箱、プラ容器、段ボール等を利用したアイデア作品を陳列していく。</p> <p>子供ならではの意外な発想から、美しく豪華で個性あふれる作品が並ぶ年度最後の楽しみな行事になっている。</p>	<p>節水、節電を呼びかけて久しい。今年度は、新園舎になり目に見える省エネ成果に注視していた。結果、水の使用量が大幅に増えた。一昨年はプールを中止し、今年度再開した為と思われる。</p> <p>節電については、大幅な減となったが、全て新機器で節電モードになっている為と思われる。</p> <p>一方、園児には標語入りポスターの作成等その啓発に努めている</p>	<p>試し刷り用紙の保管箱を印刷機の横に用意して再使用を推進している。理解が広まり裏紙使用が常態化している。</p> <p>食品ロス削減と食育に取り組み、昼食ぺろり賞を推進し、手の甲へのスタンプ押印で励ましている。自慢げに見せ合う姿がある。</p> <p>一方ぺろり賞は競争的になり、教育的にはどうかな、と不評の声も一部に聞かれる。</p>
		
		

独自メニュー

取り組み姿勢と期待する目標に年齢差があることから、独自メニューは発達段階（年長・年中・年少・満3歳児）に応じたものになっている。なお、「園長からの通信 NO.2」（令和6年4月26日）で保護者にも周知を図ったが、園舎改築に伴い園辺土地の変容や、借地田んぼの機械化により、学年メニューの変更を迫られた。

【年長】

田植え、稲刈りを体験し主食となるごはんについて知ろう。

稲刈りについては、地主の意向による機械化で園借用部分のみを手作業、天日干しは難しく今年度は中止をし来年度以降は田植えのみの体験になる予定である。

上記理由から急遽稲刈りが中止になったが、他は予定通り体験できた。

田植え直前には、ホールに早苗を持ち込み、苗の感触を知りお米になる不思議を感じた様子だった。

そのあと、植えるときの株分けの実際、泥水の中での移動の注意、畔の歩き方等を学習した。もちろん皆んな初めての体験だった。

2月20日にはおかずだけ持参して獲れたお米を「ほかほかごはんの日」としてみんなでいただく予定である。



【年中】

じゃがいも、さつまいもの栽培を通して、食物の育ちを知ろう

予定通り植え付けと収穫が体験でき、感動を味わえた。作業前に興味深げに農家の方からの説明を聞き入っていた。昨年から畑地が遠方に変わったが遠足気分を楽しめた様子であった。

おみやげ用の持ち帰りがあり、充実していた。翌日には、先生からの問いかけにバラエティーに富んだ「いも料理」に花が咲いた。

フーセンカズラと朝顔でグリーンカーテンをつくろう

酷暑が続く近年、エコと緑化と涼の恩恵を学ぶ為、みんなで種まき・植栽・水やりなどをしながら成長を見守った。短い日にちで繁る緑にびっくりしていた。

次年度はより効果的な植栽場所を検討していきたい。



【年少・満3歳児】

道具やおもちゃを大切にしよう

今年度もルールを守れなかったり、おもちゃを投げってしまう子がいたが、根気強く、繰り返し指導した結果、改善傾向がはっきり見えるようになってきた。

ほとんどは子供特有の行動と理解しているが、声掛けは必要と感じている。

ぺろり賞をめざし、食品ロスをなくそう。

昼食を完食した際には、ご褒美マークのスタンプを得意げに見せている様子がある。励みとなって効果が大きいことを実感している。一方、競争心で完食を求めているのではないかと、一、二の疑問視する声も聞こえてくる。

